



臨床腫瘍センターだより



創刊号(2008年5月19日)

1. センター長挨拶

臨床腫瘍センター部長 石田 卓

このたび5月から腫瘍センターの業務を担当させていただくことになりました石田です。どうぞよろしくお願いいたします。

福島医大では、前任の寺島先生のご尽力で、全国的にみても立派な外来化学療法室が運営されております。関係部門の方々には常日頃からご協力いただき、ありがとうございます。

外来化学療法室は今年中には3階に移転し、さらに規模を広げる予定です。またEBMセンターなどの業務もますます充実させてゆきます。安全で効果的な治療を施行できますように、今後もセンター一同努力して参りますので、引き続きのご支援をお願いいたします。



2. 外来化学療法部門

1) 外来化学療法室利用状況

平成20年 4月の利用者数 232名

平成19年度 診療科別利用者状況 単位：人

消化器外科Ⅰ	433	消化器内科	190
消化器外科Ⅱ	194	婦人科	107
乳腺外科	640	泌尿器科	5
呼吸器科	190	血液内科	20
呼吸器外科	20	小児科	353
内分泌外科	27	合計	2189

2) 退院前の見学について



退院後に外来化学療法予定の場合は、事前に連絡(内線3342)のうえ見学にいらして下さい。外来化学療法室で、オリエンテーションや副作用対策をご説明します。各種パンフレットもご紹介します。



担当看護師からの退院時サマリーや電話連絡での情報提供をお願いいたします。

3) プロトコールシステムについて

現在のレジメン登録数88件です

プロトコールシステムは、各診療科からエビデンスのあるレジメンをプロトコール審査会に申請頂き、審査・承認を得たものを電子カルテ上¹⁾に反映させ、化学療法のオーダー入力を行う際に利用頂くシステムです。申請から利用までは約1ヶ月かかります。

システムの利用にあたっては、電子カルテの掲示板にマニュアル²⁾が掲載されておりますので一読下さい。また、6月から外来化学療法は全面的にプロトコールシステムに切り替えていきたいと思っておりますので先生方のご協力を宜しくお願いいたします。

1) 登録レジメンの見方

電子カルテ HOPE/EGMAIN-EX(画面右側)の化学療法タブ→診療科プロトコール登録にてレジメンが参照できます。

2) レジメンシステム操作マニュアルの見方

電子カルテ 掲示板CONTENTS→腫瘍センターからのお知らせ→Ⅲ レジメン操作マニュアルが掲載されています。



※ システム利用やオーダーに関する問い合わせは医療情報部(内線2053)まで。



ご注意下さい

登録後のレジメンでは、一部抗がん剤投与後にラインの薬液フラッシュと抜針後の曝露防止のために、生理食塩水を注入することになっています。登録レジメン内で削除せず利用するようお願いいたします。また、プロトコール以外の注射が必要になった場合は、外来注射でオーダー入力をして下さい。

裏面へつづく

3. 緩和ケア部門より ～当院の緩和ケアこと始め～



平成10年に緩和ケア学習会が始まりました。当時、宮城がんセンターで研修中の鈴木雅夫先生（いしくま 在宅緩和ケアクリニック）が大槻学先生（現、大槻スリープクリニック開業）に依頼し、専門看護技師が主体となり緩和ケアの勉強会が月一回開かれるようになったそうです。8月で100回目を迎えますが、終末期ガイドラインの作成等、現在では当院のケアの中核、原動力となっています。

平成11年11月、鈴木雅夫先生が当院に戻られ、本格的にコンサルテーション型の緩和ケアを始めます。鈴木雅夫先生の看護部など各部署への交渉が実を結び、平成14年にはがん性疼痛看護認定看護師として1名（村松順江さん）が認定を受け、平成17年より医学部4年生への緩和ケア系講義（計8コマ）が始まりました。地域への緩和ケアの普及においては、平成15年に福島市医師会員に対して緩和ケアへの関心度と緩和ケアへのハードルについてのアンケート調査を行いました。その結果から「緩和ケア、在宅での看取りに興味はあるが、緩和ケアの知識や技術への不安、地域の介護者、開業医、病院との連携ができないことによる不安」などが浮き彫りになり、鈴木雅夫先生、鈴木信行先生（鈴木医院）、佐藤智子先生（保原中央病院）が協力し、福島市、伊達郡に緩和ケアの定期的な勉強会（緩和ケアカンファランス）を始めるに至ったそうです。現在、鈴木雅夫先生は在宅看取り専門で開業され、鈴木信行先生、佐藤智子先生も福島市、伊達市における在宅ホスピスの中心となって益々ご活躍いただいています。現在、私たちが末期がんを抱える患者さんを安心して家に送り出せる環境は、一朝一夕にしてしまったものではないということをご理解いただけたでしょうか？熱意ある方たちの連携と弛まぬ努力、そして患者様からの感謝という支えがあり実を結んだのかもしれませんが。平成19年2月より緩和ケアチームが活動を開始しましたが、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

文責：麻酔科 佐藤 薫

お知らせ



Cancer board開催案内

医療従事者を対象に各臓器別に診療科横断的な腫瘍カンファランスを定期的で開催しております。医療従事者であればどなたでもご自由に参加できます。

頭頸部	5/19 (月) 18時	場所：5階東病棟カンファランス室
骨軟部	5/19 (月) 18時30分	場所：検査部病理部合同カンファランス室
悪性リンパ腫	5/28 (水) 19時30分	場所：検査部病理部合同カンファランス室
乳腺	6/4 (水) 19時	場所：検査部病理部合同カンファランス室

臨床腫瘍セミナー開催案内

演題：「がん専門薬剤師は何ができるのか」
～医療経済性に結実する専門性～

講師：弘前大学医学部附属病院 薬剤部
がん専門薬剤師 佐藤 淳也 先生

日時：2008/5/20 (火) 18時～19時

場所：第二臨床講義室

※大学院セミナー



ミニ知識 Q. 外来化学療法加算とは？



A. (1日につき) 500点 (15歳未満は700点)
悪性腫瘍の患者に対し、治療法を文書により説明を行った上で、外来化学療法に係る専用室で悪性腫瘍の治療を目的として、抗腫瘍用薬等を投与した場合に点滴注射の所定点数に加算を行ないます。(点滴投与の都度加算)

- ※ プロトコールが変われば、再度文書による説明が必要になります
- ※ 同意書の形式は、コンテンツを参照して下さい



文責：臨床腫瘍センター（腫瘍センターだよりに関する問い合わせ先 内線：2661 担当：幕田）